

令和3年度第1回小牧市交通安全・防犯対策協議会会議記録

- 1 開催日時 令和3年7月16日(金)
午前9時50分～午前10時50分
- 2 開催場所 小牧市役所 本庁舎6階 601会議室
- 3 出席者 野々川和明 外18名
《事務局》
市民生活部長、市民生活部次長、市民安全課長、
市民安全課主幹、交通防犯係長、交通防犯係
《小牧警察署》
小牧警察署交通課長、生活安全課長
- 4 報告 (1) 小牧市における交通事故及び犯罪発生状況について
(2) 令和2年度の小牧市における交通防犯に関する取り組みについて
(3) 今年度の取組事項について
- 5 議題 防犯に関する補助金の見直し等について
- 6 議事内容

(長縄課長)

まず始めに、次第1の「会長及び副会長の選出」です。資料の「小牧市交通安全・防犯対策協議会規則」の第2条をご覧ください。会長及び副会長各1名を置き、委員の互選によりこれを定めることとなっておりますが、立候補や推薦等ありますでしょうか。

(林委員)

事務局案があれば、事務局からご提案をお願いします。

(長縄課長)

それでは事務局より、会長及び副会長の選任に関する提案をさせていただきます。

会長には、前任期に会長を務めていただいた小牧防犯協会連合会の野々川和明様に、また、副会長には、前任期に副会長をお務めいただいた交通

安全協会小牧支部の中村明様にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

それでは、会長には、野々川和明委員、副会長には中村明委員と了承されました。恐れ入りますが、野々川会長と中村副会長は、前の席にお移りください。

では、ここでお二人を代表して野々川会長からご挨拶をいただきます。

(野々川会長)

ただいま当協議会の会長として引き続きご指名いただきました。微力ですが、委員各位のご指導ご鞭撻をいただきながら、一生懸命努めますので、よろしくお願ひいたします。

本日は夏の交通安全期間中になりますが、交通安全・防犯対策は、日常生活の中の最重要課題であると考えております。事務局からも説明がありましたが、委員の皆様には様々な案件の審議、広範囲に渡る活動をお願いすることになるかと思いますが、よろしくお願ひします。

(野々川会長)

お手元の次第に基づき、議事を進行させていただきます。それでは、次第2の報告をお願いします。

(山本交通課長)

交通事故の発生状況等について、説明します。交通事故の死者は、6月末時点で、県下51名、前年比マイナス25名です。統計上発生から24時間以内に亡くなった場合、カウントされますので、1月に桜井交差点で衝突した死亡事故、後日亡くなったことから、件数にあがっていません。平成28年以降は減少傾向になります。

学区別に見ますと、村中小学校区が多く、国道、主要交差点等が関連しているかと思ひます。

当事者別では、自動二輪が増えていますが、コロナ禍の影響で、自動二輪の需要が高まっていることと関連していると考えられます。

道路形状別では、交差点内の割合が多くなっています。

年齢別にみると、282名のうち、一般の方が多数を占めます。年齢ですが、子ども15歳以下、若者16歳から24歳以下、一般25歳から64歳、高齢者65歳以上で統計を取っています。高齢者の方が全体の8.5%で、非常に少なく、コロナの影響で外出を控えている可能性があります。

時間帯別でみると、小牧署管内の特徴といえますが、多くの企業・工場・倉庫があり、車両を利用して通勤している方が多いこともあり、朝方27.7%で多く発生しています。

法令違反別では、原付以上の前方不注意が圧倒的に多く、安全不確認が原因といえます。飲酒運転は昨年0件、今年1件となっていますが、12月29日に発生した事案で、途中で人身事故に切り替えたという経緯があり、今年の件数にあがっています。

シートベルト着用状況では、四輪死傷者180人のうち、非着用が3名となっています。後部座席も急ブレーキで、前面ガラスに衝突、場合によってはガラスを割って、車外に飛び出すケースもありますので、必ず着用していただきたいと思います。

上半期の結果を報告しましたが、下半期に向けて、死亡事故を発生させない取組を進めたいと考えています。県警として、抑止の4つの柱として、高齢者・歩行者・自転車・交差点が挙げられています。

全ての抑止の対策に繋がるものとして、路面のダイヤモンドマークがあります。横断歩道の手前に予告で、45m手前に一つ目、30m手前に二つ目を路面に表示し、必ず停まるよう警告しています。

最後に千葉県八街市での5人の死傷事故を受けて、県警も通学路の安全確保を重視しており、一環として7月9日に開催した啓発活動の中で交通委員さんに学区別の安全マップを配布しました。今後も学校からの要望事項について、道路管理者と警察等で、合同点検を実施し、現場ごとの対応を進めていきます。

(永井口生活安全課長)

刑法犯の認知件数は減少傾向にあり、4年前と比べて、半数になっています。認知件数の約6割が、窃盗犯となり、グラフの「その他」は器物損壊、占有離脱物横領、傷害暴行などが該当します。

住宅対象侵入盗は下げ止まりとなっており、一番くつろげるはずの住宅での犯罪であり、市民の皆さんの不安感も大きい犯罪といえます。その中で、忍込みは家人がいる状態で、財物を盗むもので、一步間違えれば強盗事案にも発展する犯罪です。

特殊詐欺は増加傾向にあり、昨年は 7 件、被害額 2800 万円に対し、今年度は 6 月時点で 11 件、被害額約 1840 万円で、単純計算で 1 件当たり 167 万円の被害となっています。1 件当たりの被害額が大きいのも特徴です。

小牧市の状況として、県下の犯罪率がワースト 1 位となっており、コロナ禍で、警察官が人を集めての啓発活動が難しいこともあり、ツイッター・ケーブルテレビを活用した啓発等を行っています。

(林交通防犯係担当)

令和 2 年度における小牧市の取組について、まず①交通安全対策として、交通安全教室・街頭キャンペーン等を実施しました。新型コロナ禍の影響で、開催数・開催規模は縮小して行っています。交通安全教室では、小針の郷などの老人福祉施設で、施設利用者に対し、交通安全危険予測シミュレーターを体験し、交通安全意識を高めてもらいました。

同様に防犯対策事業も、規模等を縮小して行っています。金融機関での啓発活動では、金融機関に依頼し、啓発品を来客者に窓口配布して貰うなど、できるだけ接触型を避ける取組を行いました。

続いて、巡回バスへのラッピングについてです。交通安全・防犯意識の向上のため、小中学生からポスターの募集を行い、特別賞はバスのラッピング、特別賞・優秀賞はまなび創造館でポスターの掲示を行いました。今年度はこの夏休み期間にポスター、標語を募集しますので、10 月に予定しています第 2 回協議会で、委員の皆様にご協力いただく予定です。よろしくお願いいたします。

続いて、今年度の取組の②自転車用ヘルメットの補助について、今年度の 10 月からヘルメットの着用努力義務化、及び保険の加入の義務化が始まります。ヘルメットについては、購入費の 2 分の 1、上限 2000 円で、全年齢を対象に今年度の 4 月から補助を開始しています。ケーブルテレビ、広報「こまき」などを活用して、PR をし、毎月 60 件程度の申請をいただいています。

高齢者急発進等抑制装置の補助については、令和2年度に引き続き実施しています。昨年度に比べ、申請件数は減少傾向にあります。引き続きPRし、不慮の事故が一件でも減らせるよう努めます。

(野々川会長)

ただいま説明のありましたことについて、ご意見ご質問等がありましたら、お願いします。

(舟橋委員)

犯罪の取組について、犯罪者がいる前提で、皆さんは気をつけてくださいという取組が多いと思います。そもそも犯罪者を出さない、減らす取り組みがないように思えます。保護者の立場で、子供に対して教育していくことは重要ですが、ぜひ小中学校においても、犯罪から守ると同時に、犯罪をしてはいけないという教育も、学校と連携して進めて貰いたい。

二つ目として、犯罪発生状況として、占有率の高い自転車盗・万引きについて、詳細な説明がありませんでした。

(永井口生安課長)

確かに自転車盗、万引きは多く発生していますが、不安感が大きく、被害額の大きい、住宅侵入盗、特殊詐欺について、重点的に説明しました。

(舟橋委員)

住宅侵入盗、特殊詐欺について、インパクトが大きいのは分かりますが、自転車1台でも、盗まれた方のショックは大きいと思います。本日の報告内容を広く周知するにあたっては、何に重点を置いているかを明確にしてほしい。

(杉山委員)

交通事故の当事者別のグラフがありますが、四輪対自転車だと四輪側の保険が使用され、自転車対歩行者・自転車対自転車の場合、自転車の保険を使用することになると思いますが、その割合等がわかるデータを示してほしいです。自転車の保険の重要性を周知するにあたっては、説得力を持

たせるよう情報提供をお願いします。

(鈴木委員)

愛知県警では、高齢者の死者数が多く、小牧市は一般が多いと報告がありました。県警で活用されているビッグデータの利用状況、また小牧市での分析等がありますか。

(山本交通課長)

警察本部に確認してみます。

(野々川会長)

続いて、次第3の議題「防犯に関する補助金の見直し等について」、事務局から説明をお願いします。

(丹羽主幹)

「防犯に関する補助金の見直し等について」説明させていただきます。

各種防犯の補助金のうち、防犯対策補助金と事業者防犯カメラの見直しを検討しております。この補助金を議題とした背景は、補助金の出来た経緯とその目的について、ある程度達成したこと、現状に即していないことなどがあるからです。

そこで、防犯対策補助金のメニューの見直しと、事業者防犯カメラの縮小・統合を検討しています。防犯対策補助金は、自宅に施す防犯カメラ、センサーライト等に対する補助制度です。1世帯1回に限り、上限1万円の補助をするもので、平成16年から始まり、7,800件を超える申請があったものです。令和2年度の申請内訳を見ますと、約7割が録画機能付きインターホン申請しており、内訳にかなりの偏りがある状況となっています。

次に、事業者防犯カメラは、商業施設・マンション等の一般利用者が使用する駐車場に設置する防犯カメラを補助するもので、1施設1回限り、上限30万円を補助するもので、去年は1件の申請がありました。

本事業は、平成22年頃に自動車盗の増加が著しかったためスタートしたものでありますが、現在の小牧市内の自動車盗の発生件数は大幅に減少

しており、現行の犯罪情勢に即しているとはいえない状況にあります。

そこで、見直し案として、防犯対策補助の対象から「録画機能付インターホン」を外すとともに、事業者防犯カメラの補助を廃止します。

代わりに、事業者も防犯対策補助を受けられるようにして防犯カメラの設置をできるように見直します。事業者防カメと比べ、補助額は減少しますが、これまで対象とならなかった場所、例えば従業員の駐車場なども撮影できるようになります。従来、2台以上の購入が条件でしたが、1台でも申請できるようになり、利便性が向上すると考えています。

他にもメリットとしては、事業者防カメの場合、事前申請・実績報告が必要でしたが、防犯対策補助金と同じ申請方法になれば、手続きが大幅に減少します。

また、インターホン廃止に伴い、センサーライトや迷惑電話防止機能付電話の申請が見込まれるため、世帯の防犯力の向上が考えられます。

さらに、個人宅等の防犯カメラが進むことで、地域の防犯力があがることも見込まれます。

デメリットは、事業者防カメの補助限度額が大幅に下がるため、事業者からの反発が予想されるほか、インターホン設置予定の個人・販売業者からの反発も予想されます。

それでは、事務局案及びその他防犯関連の補助メニューの全般について協議をお願いします。

(鈴木委員)

防犯カメラについて、防水等の機能がついているものも増えており、長期で使用できます。電気の維持費も、太陽光パネルも活用するなど、維持費も安価に抑えられるものもありますので、事務局案に賛成です。

(丹羽主幹)

防犯カメラは地域に防犯力に繋がることから、皆様のご意見を元に今後も検討を進めていきます。

(野々川会長)

それでは質問、ご意見等もないようですので、以上で本日の議題等は終

了します。その他としてありますか。

(舟橋委員)

先日、熱海で起きた土砂災害に関連して、小木小学校区では、五条川、合瀬川など川に挟まれており、昔から地盤が低く、川が決壊したこともあります。昨年、ゲリラ豪雨で、堤防ギリギリまで水面が上がっていたことがあり、側溝の間から水が吹き出すなど、子供たちの登下校時に被災する可能性も考えられます。二次災害のリスクも踏まえ、災害後の危険箇所のリストアップ、対応方法等を交通安全の観点からも、水害等対策について、議論してほしい。

(小清水委員)

水害等の議論について、地元と県・市と協議は進めています。庄内川河川の河口から順次工事を実施するなど、予算の関係もあり、目に見えて改善されているとは言えないが、少しずつ進んでいる実態もあります。

(長縄課長)

今後も地域からのご要望等は、防災危機管理課、道路課、河川課等と連携して、情報を共有し、進めていきたいと考えています。

本日ご意見いただいた内容の中で、お示しできる資料等あれば、情報を共有させていただきたいと思えます。

長時間にわたり議論いただきましてありがとうございます。今後の協議会でも有意義なご意見、ご提案いただきますようお願いいたします。

これをもちまして、第1回小牧市交通安全・防犯対策協議会を閉会させていただきます。

本日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。